

**NEWS RELEASE** www.jogmec.go.jp

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構



問合せ先：  
石油開発技術本部 R&D 推進部 多田、志水  
TEL: 043-276-4404 / 4386

広報担当：  
総務部広報課 植松  
TEL: 044-520-8732

## ロシアの石油会社とのロシア連邦・イルクーツク州における GTL<sup>\*1</sup> の経済性評価の開始について

発表資料に一部間違いがありましたので、お詫びして訂正いたします。(平成 21 年 11 月 27 日 16 時)

【訂正箇所】 本文・3パラグラフ目 **鉱区名の表記**

〔訂正前〕

〔訂正後〕

セベロモグディンスキー鉱区 → セベロ・モグジンスキー鉱区

ザパドヤラクチンスコエ鉱区 → ザパドナ・ヤラクチンスキー鉱区

ポリチェルスキー鉱区 → ポリシェチルスキー鉱区

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC、理事長:河野 博文)とロシア連邦・イルクーツク州のイルクーツク石油<sup>\*2</sup>(INK、代表:Nikolai Mikhailovich Buinov会長)は、11月26日、JAPAN-GTLプロセス<sup>\*3</sup>の適用可能性を共同でスタディする覚書(MOU)を調印しました。

JAPAN-GTLプロセスは、市場から遠隔地にあり、可採埋蔵量が中小規模であること等から経済的開発が困難な天然ガス資源の有効活用、早期事業化を促進するため、JOGMECが日本GTL技術研究組合と共同で開発しているものです。

JOGMEC と INK は、日本GTL技術研究組合の協力を得ながら、今後一年間にわたり、東シベリア・イルクーツク地方におけるINK保有鉱区から産出される天然ガス資源を対象として、天然ガスから軽油等の合成液体燃料を製品化するスタディを共同で実施し、JAPAN-GTLプロセスを適用した事業化の可能性を明らかにしていく計画です。

JOGMECは、INKとの間で、既に3つの探鉱調査事業(セベロ・モグジンスキー鉱区、ザパドナ・ヤラクチンスキー鉱区及びポリシェチルスキー鉱区)を共同で実施中です。今回の協力は、その他の鉱区で生産される天然ガスを主対象とするものの、事業化の可能性が確認されれば、日・露間の新たな分野での協力事業につながる可能性があります。また、ロシアにおいてもゼロフレアリングの動きがあることから、こうした環境対策分野においても大いに貢献する可能性があります。

\* 1 GTL

Gas To Liquid (天然ガス液体燃料化)の略称。在来型炭化水素資源の中で、世界各地に豊富に賦存する天然ガスを原料として製造される常温で液体の合成燃料であり、灯油・軽油の代替燃料になり得るとともに、燃焼時の硫黄酸化物や窒素酸化物の排出量が少ないことから、低公害燃料として注目されているもの。現在、Shell社及びSasol社がマレーシアや南アフリカで先導的に独自技術を適用した商業プロジェクトを立ち上げている他、カタール等で大規模プロジェクトが進行中である。

\* 2 イルクーツク石油

Irkutsk Oil Company、イルクーツク市を本拠とする民間石油会社。

INKとは、ロシア語でIrkutsk Oil Companyの略称。

\*3 JAPAN-GTLプロセス

JOGMEC と日本GTL技術研究組合が共同開発している日本固有のGTL技術であり、2009年4月、日本海側に位置する新潟市で建設されていた実証プラントが竣工し、現在、実証運転をとおして事業化にむけた最終確認を実施しているところ。

実証プラントは、合成ガス、FT反応、アップグレーディングの三つのセクションに分かれ、この夏には目標であった全体系をとおして500bpd(80キロリットル)のGTL油の連続運転を確認している。今後は、本年の実証運転実績を踏まえ、連続運転や触媒の性能向上に向けた検討等が実施されて行く予定。

以上